

# MY WAY!

## ☆コロンボ探偵団

- コロ団1 … 探偵団のリーダー。たぶん、まじめにかんがえてる。
- コロ団2 … 探偵生活3年目。楽しければだいたいOK。
- コロ団3 … 探偵生活1年目。ネコが好き。

## ☆ハーバード探偵団

- ハー団1 … ハーバード大学を3才で1年で1番で卒業した(らしい)探偵にして、怪盗ルパンズの一人。
- ハー団2 … いつから探偵をやっているのかわすれちゃった。お茶が好き。
- ハー団3 … 探偵を始めたばかりの新人。めんどくさいことはキライ。
- ハー団4 … 探偵団の助手。だけどこの町には、ずーっと昔から住んでるらしい。

## ☆世界探偵協会 名前のない町支部

- 事務局長 … 探偵たちをまとめる探偵協会の事務局長。ビシツとしてる。
- 事務員 … 探偵協会の事務員…と見せかけて、実は怪盗ルパンズの一人。

## ☆チーム・キャラクターズ

- まっしろ姫 … この町に住む、お姫さま。通称・まっしろ姫。いつも7人の小人(大人の先生たち)に追われている。実は怪盗ルパンズの一人。
- 戦う姫 … この町に住む、戦うお姫さま。じつはすごい強いらしい。
- 魔女A … この町に住む、魔女の双子。おばあちゃんが、すごい魔法使いらしい。
- 魔女B … この町に住む、魔女の双子。おじいちゃんも、すごい魔法使いらしい。

## ☆その他、大人の先生がやるキャラクター

- 7人の小人 … まっしろ姫のお世話をする小人(?)たち。
  - モンスター・ママ … カングク島の看守長。
- 女性

## 世界探偵協会・なんかみんなが集まる部屋

それはタベのことだった。

世界一の美術館ともいわれるフルフル美術館に、あの怪盗ルパンズから予告状が届いたんだ！

まっしろ姫 予告状。

事務員

明日の夜7時、フルフル美術館に展示されている、名画・モニャリザの肖像をいただきにありがとうございます。  
怪盗ルパンズ。

そして今朝、なんかみんなが集まっていた、なんかみんなが集まる部屋に、  
コロ団3がバタバタとかけこんできました。

コロ団3

たいへん、たいへん、たいへんよーっ！

コロ団2

どうしたのー？

コロ団3

ちよっと、○○○(コロ団2の名前)、たいへんなのよー！

コロ団2

うそおー！？

コロ団3

ホント！

コロ団2

ホントにホント？

コロ団3

ホントにホントにホント！

コロ団2・コロ団3 しんじらんなーいっ！

おおさわぎする二人の声を聞いて、コロ団1もかけこんできました。

コロ団1

なにになに？ どうしたの？

コロ団2

さあ、わかんない。

コロ団1

おいっ！

コロ団3

じつは…。

同じように、予告状の話を聞いたハーバード探偵団も、なんかみんなが集まる部屋に入ってきた。

ハー団1

予告状ですってー！？

ハー団4

はい、そうなんです。フルフル美術館に、タベ。

ハー団3

えー、でもあそこって、すごい警備のキビしいところじゃん。

ハー団1

いったいだれが…。

ハー団4

それが…予告状を出したのはあの…怪盗ルパンズなんです！

コロ団&ハーバード団 怪盗ルパンズ！

ガシャーン！

びっくりしたハー団2が、飲んでいたお茶のカップを落っことして割って

しまった。

ハ一団4　ちよっと、○○（ハ一団2の名前）ちゃん！カップ！

ハ一団4とハ一団2は、あわててかたづけはじめる。

ココ団1　ねらったエモノは絶対にぬすみだす、怪盗ルパンズ！

ハ一団2　数えきれない宝をぬすみ、

ココ団3　どんな警備のキビシイお屋敷からも、

ハ一団3　どんなにカギのかかった金庫からも、

ココ団2　絶対にぬすみだすという、あの…

ココンボ&ハ一バード団　怪盗ルパンズ！

ココ団2・ココ団3　アがる〜！

ココ団1　よし、この事件…。

ココンボ&ハ一バード団　わたし（僕）たちがもらった！

そのときになって、ようやく2つの探偵団は、顔を見合わせた。

ココンボ&ハ一バード団　コラーツ！

さっそく、ケンカが始まりそうな予感…。

ハ一団1　これは、あたしたちの仕事よ。

ココ団3　なにいつてんのよ。先に予告状の話を聞いたのはあたしよ。

ハ一団3　できる方がやった方がいいにきまってんじゃない。

ココ団2　あんたたちの方が、あたしたちよりできるっていうの？

みんなはお互いにギャーギャーと口げんかをしはじめた。

それが聞こえたんだらう。探偵たちをまとめる探偵協会の事務局長と事務員がウンザリしたように出てきた。

事務局長　いいかげんにしなさい！

事務局長の声に、みんなはピタツと止まった。

事務局長　まーったくもう、なんであんたたちはいつもケンカするのよ。

事務員　そうそう。

事務局長　おなじ探偵なんだから、協力すればいいでしょ！

事務員　そうそう。

事務局長・事務員　わかった？

それまで、ビシツと事務長のいうことを聞いていた探偵たちだったが、また顔を見合わせると…。

みんな …フン！

事務局長・事務員 はあ…。

二人は、つかれきったように、ためいきをついた。

コロン1 そうだ！ きつとルパンズは、どこか入れる場所を見つけたにちがいない！

コロン3 そっか！ それじゃあ、あたしたちがそこを守っとけば…。

コロン2 ルパンズは美術館に入れないってわけね！ ○○(コロン3の名前) っ

ば、あつたまいい！

コロン3 でしょ〜！

…いや、僕がかんがえたんだけど。

コロン1 それじゃ、モニヤモニヤの肖像を守りに行っちゃおう？

コロン2 行っちゃおう〜！

コロン1 いや、モナカだよ、確か、モナカだったと思うんだけど…。

こうして、コロン探偵団は、ゴチャゴチャいいながら美術館にむかった。

ハー団2 どうしましょう、先生！

あわてることないわ、ワトソンくん。

ハー団1 ○○(ハー団2の名前) です。

せんせんちがうじゃん。

ハー団4 どうせあいつらに絵はまもれないわ。だったら、ルパンズが絵をぬすんだ

あとが勝負よ。

と、いうと…？

ハー団2 レストレードくん！

ハー団1 ○○(ハー団3の名前) です。

やっぱりせんせんちがうじゃん。

絵のまわりに警官隊をおいてちょうだい。そうすれば、ヤツらは手袋の中のハリネズミよ！

う、うん…なんかとにかく出られなそう。

ハー団4 さあ、行きましょう！

こうして、ハーバード探偵団も美術館にむかっていった。

事務局長 ほんっと、手がかかるんだから。

事務員 まあ、昔っから仲悪いですからねえ。

事務局長 シャーロット先生がいたときはよかったんだけど…。

事務員 ……。

事務局長 とにかく、あなたも美術館に行つて、てつだつてあげて。

事務員 わかりました！

事務局長 はあ…また、かたこりが…。

事務局長は、大きくためいきをつきながら、協会の奥に入っていった。  
事務局長はいそがしいのだ。

事務員

…ま、おかげで仕事はしやすいんだけどね。

事務員がポツリとつぶやくと、まっしる姫とハー団1が出てくる。

まっしる姫

じゃ、行こっか。

サイレンの音が聞こえてくる。

S2

## フルフル美術館・展示室

その日の夜、7時。

フルフル美術館の展示室。

とつぜんだけど、モニャリザの肖像画がぬすまれてしまった！  
サイレンを聞いたコロンボ探偵団が、あわててかけこんでくる。

コロ団3

そんな！どっやって中に入ったの！？

ハーバード探偵団もかけこんでくる。

ハー団2

いつのまに絵をぬすんだの！？

ハー団3

ずっとここで見はってたのに！

まっしる姫

名画・モニャリザの肖像はいただいたわ。

事務員

探偵のみなさん、ごくろうさま。

ハー団1

怪盗ルパンズより。

ルパンズは、かっこよく、さっそうと去っていく。

みんな

ちくしょーっ！

みんなは、ガックリ…。

ところが、だれもいなくなった展示室に、ポツンと残されているものがあった。

ハー団2

なんだろう、これ…。

それは、ボロボロになった古いカバン。

みんなが絶対にわすれることのできない、大事な人のカバンだった。

コロ団1

これは…シャーロット先生のカバンだ！

みんな

えーっ！

事務局長、出てくる。

事務局長　そして、翌日。

### SS3

#### 世界探偵協会・なんかみんなが集まる部屋

翌日、やっぱりみんなは、なんかみんなが集まる部屋になんか集まっていた。

そしてカバンを前に悩んでいた。

そこに、チーム・キャラクターズが、遊びにやってきた。

まっしろ姫　やっほー、みんな！元気…じゃなさそっね。

事務員　あ、姫さまたち。ごきげん…。

みんな　うるわしゅう。

みんな、優雅におじぎ。

まっしろ姫　それが、うるわしくないのよ。ねえ。

戦う姫　ぜんっぜんうるわしくない。

ハーク3　えー、なんでー？

まっしろ姫　もー、お城にいてもヒマだしさ、

戦う姫・魔女A・魔女B　うんうん。

まっしろ姫　ほらうち、うるさいのが7人もいるじゃない？

戦う姫・魔女A・魔女B　うんうん。

まっしろ姫　あれはするな、これはダメって、もうやってらんないのよ。

みんな　わかる〜。

そのとき、協会の外から歌声が聞こえてきた。

小人たち　ハイホー♪ハイホー♪仕事が好き〜♪

戦う姫　こ、この歌は…！

魔女A・魔女B　まさか！

みんな　7人の小人だ！

まるで山賊のように飛び込んでくる7人の小人(?)たち！

小人1　いたぞ！姫さまだ！

小人2　つかまえる！

小人たちは、まっしろ姫たちをあつという間に取り囲む。

でもキャラクターズも負けてはいない。

まっしろ姫を守るように、小人たちにむかいあう！

まっしる姫 いやよ！あたしはぜったいにお城にはもぐらないからね！  
探偵系のみんな ワクワク。

小人3 ほう、そこまで言うなら致し方ありませんな。(指ボキボキ)

戦う姫 なによ！なにをする気！？

探偵系のみんな トキトキ。

小人4 これをご覧ください！…リンゴです。

みんな リンゴ？

まっしる姫 リンゴはいやっ！

小人5 今だ！かかれ！

戦う姫・魔女A・魔女B やめなさい！

3人は、あっという間に小人たちをやっつけた！

探偵系のみんな おおっ！

戦う姫 姫様がいやがってるでしょ！

小人たち ちくしょう、覚えてやがれ！

小人たちはいなくなったけど、まっしる姫はまだぶっ倒れたままだ。

魔女A まっしる姫、だいじょうぶ？

まっしる姫 リンゴ…リンゴはイヤ…リンゴはこわい…。

魔女B しっかりして！これは毒リンゴじゃないから！

まっしる姫 はっ…よかった。また死んじやったかと思った。

みんな 死なない、死なない。

戦う姫 で、なにしてたの？

ハー団3 うん、じつは…。

みんなの前には、タベ、美術館で見つかったカバンが置いてある。  
キャラクターもそれを見たたん…。

キャラズ シャーロット先生のカバンだ！

みんなは、ちょーびっくりした。

まっしる姫 …女名探偵、シャーロット・ホームズ(当時12才)。

戦う姫 この探偵事務所を作ったちょーすごい探偵にして、みんなの先生。

魔女A でも、怪盗ルパンズにカバンをぬすまれて、いなくなっただんじゃ…。

ピンポンパンポーン♪

まっしる姫 ここで、怪盗ルパンズより、みなさまにご説明もうしあげます。

事務員 この町では、怪盗ルパンズに宝物をぬすまれた人が、

ハー団1 次々と町から消えていくという事件が続いています。

まっしる姫 いったいそれがなぜなのかは、私たちにもわかりません。

事務員 そのなぞときは、物語のつづきをごらんください。  
ハ一団1 以上、怪盗ルパンズからの…。  
ルパンズ お知らせでした。

ピンポンパンポーン♪

まっしる姫 …事件ね。

みんな え！？

まっしる姫 これは事件よ。名づけて、シャーロット先生どっかいつちやった事件！  
なにか手がかりはないの？

魔女A 今のところ、見つかっているのはこれだけです。

事務員 こわれて開かないカバン。

ハ一団3 ぜんぜん読めない手紙。

ハ一団2 どこのかさっぱり分からないカギ。

探偵たち つまり！

魔女B なにもわかんないのね。

みんな、ガックリ。

コ口団2・コ口団3 ウケる〜。

ハ一団4 それともう一つ…こんな手紙がとどいていました。

みんな 手紙？

ハ一団4 シャーロット先生から、私たちへのメッセージ。

みんな え！？

ハ一団4は、手紙を広げて見せる。

みんな …私は、カンゴク島にいる。

## S4 世界探偵協会・資料室

事務局長

カンゴク島…。

事務員 そこは、けわしいガケにかこまれた、ゼツカイのコトー。

魔女A 一度入ると二度と出られないという恐ろしい島。

魔女B でも、人はいます。

戦う姫 カンゴク島こそが、楽園につづじる道なのだ。

まっしる姫 だれもが通らなくてはならない、試練なのだ。

探偵たちは、めずらしく真剣に調べ物をしている。

一冊のノートを見ていたハ一団1が、とつぜん大きな声をあげた。

ハー団1 分かったわー宝物をぬすまれた人が、どこへ行ってしまったのか…。

ハーバード団 えー？

ハーバード団のみんなは、ハー団1のまわりにあつまってきた。

ハー団4 どういうことー？

ハー団1 これを見て。

ハー団3 これ…シャーロット先生の日記？

ガシャーン！

ハー団2 シャーロット先生のー！？

ハー団4 ハー団2ちゃん、カップ、カップ！

同じころ、同じ資料室で、コロンボ団も同じことに気がついていた。

コロ団1 つまりシャーロット先生は、一度、カンゴク島に行ったのに、ここにもびつてきたんだよ。

コロ団2・コロ団3 えーっ！？

コロ団2 二度と出られないってウワサのカンゴク島から？

コロ団3 脱出したっていうこと？

コロ団2・コロ団3 それってヤバくない？

ハー団4 そして、カバンをぬすまれたシャーロット先生が、また連れて行かれたのが…。

ハー団3 カンゴク島…。

コロ団3 ということは、宝物をぬすまれた人はみんな…。

コロ団1 カンゴク島に連れて行かれてるってことだよ！

みんな、拍手！

ハー団3 なんか、あたしたち…。

探偵たち 探偵っばーい！

事務員ずとキャラズ 探偵だし。

ハー団1 あ、今、ハーバード大学を3才で卒業したあたしの頭がピンときた！

ハー団4 先生！

コロ団3 カンゴク島は楽園とつながってるってことは…。

ハー団3 先生を助けるついでに…。

探偵たち 楽園行けちゃうってことー！？

探偵たち、歓声。

事務局長 ちよっと！まじめにやってみー！

コロ団1 よーし、この仕事…。

探偵たち      あたし(僕)たちがもらった!

探偵たちは、顔を見あわせると、いつものように…。

探偵たち      フン!

事務局長      あたまいたい…。

そして、いつものように事務所を出ていった。

戦う姫      でも…どうしてなんだろう。

まっしる姫      シャーロット先生は、カンゴク島のことは何にも教えてくれなかった。

魔女A      そこがどんなところとか…。

魔女B      どうやってもどって来たかとか…。

そのとき、事務員はみんなの側をはなれてポツンと一人で座りこんだ。  
あまり、この話を聞きたくないようだった。

事務局長      ねえ、二人はなにか知らないの?

戦う姫      二人のおばあちゃんは、すごい魔法使いなんですよ。

魔女A      それが、わからないんだ。

魔女B      カンゴク島では、魔法は使えないから。

事務局長・まっしる姫・戦う姫      どういうことよ?

魔女B      カンゴク島では、どんな力も使えなくなっちゃうんだって。

魔女A      それが、カンゴク島のいちばんこわいところだって、おばあちゃんは言っ  
てた。

戦う姫      どんな力も…。

魔女B      それと…。

言いかけて、魔女Aと魔女Bは、ちょっと顔を見あわせた。

言おうかどうしようか、まよっているみたいだ。

魔女B      こうも言った。もどってきたのは、シャーロット先生一人じゃないって。

事務局長・まっしる姫・戦う姫      え!?

魔女A      みんなをカンゴク島につれていくスパイが、この町にはいるんだって。

事務局長・まっしる姫・戦う姫      スパイ!?

## SS5      その日の夜・町の公園

事務員はなにか考えごとをしながら、公園の中をブラブラしていた。

事務員      カンゴク島…か。

そこに、やっぱりなにか考えごとをしながら、コロ団1とハー団2もやってきた。

3人  
あ…。

事務員 どうしたの、こんなところで。

コロ団1 考えてたんだ。

ハー団2 わたしも。

コロ団1 シャーロット先生は、

コロ団1・ハー団2 どうして楽園に行かなかったんだらうって。

同じことを考えてたことに、びっくりする2人。

ハー団2 だって、楽園ってすごくいいところでしょ？

コロ団1 もどってこなくなたっていいわけじゃん。

事務員 行き方がわからなかったとか？

コロ団1 …それだけかなあ。

ハー団2 私ね、シャーロット先生は、行けなかったんじゃないかって、行かなかったんじゃないかって思うんだ。

事務員 行かなかった？

ハー団2 だって私、今この町にいて、楽しいもん。他に行きたいところなんてない。

事務員 だから先生も、そう思ったんじゃないかって…。

いんだから。楽園に行くために。ここよりも、もっといい世界に行くために。

2人  
……。

事務員 みんなもそれを望んでるんだよ。

その声は、どこかちょっとさびしそうだった。

3人は、ふと町を見下ろしてみた。

昔はたくさんの明かりがかがやいていた町も、今はまっくらだ。

だいぶ、へっちゃったよね。この町に住む人も。

……。

いったい、何人が楽園にたどりつけたんだらう。

ハー団2は、シャーロット先生の手紙を取り出した。

ハー団2

やっぱり…わたし、知りたい。先生がどうしてもどってきたのか。どうしてカバンを送ってきたのか。きっと先生は、だれかに何かを伝えたかったんだと思うから、だから私…。

ハー団2は言いかけて、口をつぐんだ。自信がないみたいだった。

コ○団1 …いいね、やろつよ。

ハ一団2 え…？

コ○団1 カンゴク島に行って、カバンのナゾをとくんた。先生がカンゴク島にいるなら、そこにきつと手がかりがあるはずだよ。

ハ一団2 うん、そうだね。

コ○団1 それじゃ、探偵同盟の結成だ。

コ○団1とハ一団2は、握手をする。

それから2人は、事務員にも手をさしだす。

だけど事務員は、その手をにぎれなかった。

そこに、魔女Aと魔女Bが怪盗ルパンズからの予告状をもってきた。

魔女A たいへん、たいへん、たいへんよ！

魔女B 怪盗ルパンズからの予告状がきた！

みんな えーっ！

なぜか、みんなもいつせいにかけこんできて、予告状をのぞきこんだ。

まっしる姫 明日の夜7時、探偵事務所に届けられた、

ハ一団1 名探偵シャーロット・ホームズのカバンをいただきにあがります。

まっしる姫・ハ一団1 怪盗ルパンズ。

戦う姫 これって…あいつらも楽園に行こうとしてるってこと！？

ハ一団3 だったらまよってるばあいじゃないじゃない。

ハ一団4 行きましよう、カンゴク島へ。

みんな うん！

みんなは、遠くカンゴク島の方を見る。

事務局長 シャーロット先生を見つけるために。

戦う姫 町のみんなをたすけるために。

コ○団1 カンゴク島のなぞをとき、楽園への道を見つけだす。

ハ一団1 最高の事件がいま、はじまる！

その時、事務員がぼつりと、

事務員 ねえ、みんな。一つだけ教えてあげる。カンゴク島ってね、こう呼ぶ人も

いるんだよ。…この島は、自分の家だって。

音楽

## S6 カンゴク島・島の入り口

ということで、みんなはカンゴク島にどうにかしてやってきた。

まっしろ姫　　ということで、カンゴク島に着いたわけね。

事務局長　　すごい展開ね。

戦う姫　　そして今、私たちの目の前にあるのが…。

みんな、それを見上げる。

魔女A　　…ものすごいガケ。

魔女B　　…そしてブキミなどうくつ。

コロ団2　　…その入口には鉄ごうし。

ハ一団1　　ハ一バード大学を首席で卒業した私の頭脳によると、ここが入り口ね。

ハ一団3　　すごい、サヨちゃん。

コロ団3　　そんなの、だれでもわかるじゃん。

ハ一団1　　なによ！

そのとき、入り口を調べていたコロ団2が、なにかを見つけた。

コロ団2　　あ、見て！ここに、ダイヤルがついてる。

コロ団3　　なるほど、このカギのナゾをとけてことね。

みんな　　おー。

ハ一団3　　めんどくさいからさ、一個ずつ回していつてみればいいんじゃないの？

魔女A　　なに言ってるのよ。こういうのは、ワナがつきものでしょ。

みんな　　え！？

みんなは、あわてて入り口からはなれた。…ハ一団2以外ね。

魔女B　　まちがえたら落とし穴に落とされるとか、

ハ一団2　　えい。

ガチャーン！

みんな　　わー！

魔女A　　ものすごい電気がながれるとか。

ハ一団2　　えい。

ビリビリビリ！

みんな　　わー！

魔女B　　警報がなって見つかったちゃうとか。

ハ一団2　　えい。

ビー！…ビー！…ビー！…

ハ一団3 ほんとだー。  
魔女A・魔女B ね？  
みんな ね？…じゃなくて！

なんてツッコんでる間にも、警報はつづいてる。

戦う姫 どうしよう。にげなくちゃ！

ハ一団3、なんとなく入り口をおしてみる。  
ガチャ。

ハ一団3 ねえ…あいてるよ？  
えーっ！

最初から、カギがかかってなかったってこと？  
そうか！ 普通カギかけるっしょ、っていう思い込みこそが、ワナだったのか！

みんな そんなのってあり！？

警報はさらにうるさく鳴っている。

ハ一団4 とにかく行きましょう！  
みんな おー！

みんなはどろくつの中へと進んでいった。

## S7

### カンゴク島・オヤジの道

みんながどろくつを進んでいくのを、監視カメラでジッと見ている目があった。

カンゴク島の看守長、モンスター・ママだ。

モンスター ホーッホッホッ！ べつやらこのカンゴク島にお客さんがいらっしや  
ったようザマスね。お出迎えしてあげるザマス。そしてビーシビシ、ビー  
シビシきたえて、私の言うことを素直にきくとーってもいい子にしてあげ  
るザマスよ。ホーッホッホッ！

そこに、コロンボ探偵団がかけこんできた。

モンスター それでは、レスナー、スタート！

3人はずいぶん走ってきたのか、息を切らしている。

コ○団1 みんなとはぐれちゃったみたいだな。

コ○団2 それにしても、ここ…。

コ○団3 なんだか暗くて、不気味で、迷路みたいで…。

コ○団2・コ○団3 ウケる〜。

コ○団1 いやいやいや、そこはこわがる場所でしょ。

コ○団2 あ、なんか書いてある。

コ○団3 えーっと、「オヤジの道」だって。

コ○団2 なにそれ。

コ○団1 こっちにもあるよ。「ろうかはしずかに」

コ○団2 学校みたい。

コ○団3 しずかにしなかったら、どうなるのかな。

コ○団2 やっぱりおこられるんじゃない？

コ○団3 だれに？

コ○団2 オヤジに。

コ○団2・コ○団3 ウケる〜。やってみよう！

コ○団1 いやいや、あぶないって。ぜったいワナがあるから。

コ○団1が、二人を必死に止めていたそのとき、いつもの歌声が聞こえてきた。

小人たち ハイホー、ハイホー、仕事が好き〜♪

3人 あ、この歌声は…！

小人たち、やかましく入ってくる。

小人1 あ、なんだここは！

小人2 あやしげなろうかだ。

小人3 ええい、かまうことはない。ひめさまを見つけるのだ！

小人たち おう！

小人1 かかれー！

チュドーン！

小人たちは、カミナリに打たれてぶったおれた。

3人 あーあ…。

3人は、そのスキマをぬって、ろうかを渡りきる。

コ○団1 あぶないとこだったあ…。

コ○団2 でもあれ、どうする？

コ○団3 いいよ、ほっとこ。

コ○団2 そうだね。

コ○団1 それにしても…。

その声に反応して、また小人にカミナリがおちたけど、3人は気にせず、また先を進むのだった。

モンスター  
あらあらあら、なかなか賢い子たちザマスねえ。どこまで進めるか、見ものザマス。さ、それじゃ引き続き…レッスン2!

## S8

### カンゴク島・ケムシの道

また別の通路では、事務員ず&キャラずがまたも行き止まりにぶつかっていた。

戦う姫  
さあ、どこからでもかかってくるなさいっ! …あれ?

みんな  
また行き止まり? はあ…。

戦う姫  
これで何度めよ。

事務局長  
さあ…。

魔女B  
また戻る?

魔女A  
うーん、それしかないんだろうけど…。

みんな  
ダルいよね〜。

戦う姫  
よし、わかった! こういつときは…カベをぶっこわす! えーい!

戦う姫がそういったとたん、ブブー! というブザーと同時に、カミナリがおちてきた。

戦う姫は、カミナリにやられてぶったおれた。

魔女A  
なに、今の?

魔女B  
どうやら不正解だったみたいね。

事務局長  
なるほど…。あたしたちは、すでに試されてるってわけね。

まっしろ姫  
わかったわ。カベがダメなら、今度は床! 開け、ゴマ!

ブブー!

チュドーン!

事務員  
…ちがったみたいね。

まっしろ姫  
…ひどい。

事務局長  
でもこまったわね。このままじゃ先に進めないし…。

魔女A  
あのーすいませーん。

魔女B  
どうやって先に行ったらいいか、教えてくれませんか?

事務員  
あのね、あたしたちはシンニューシヤなのよ?

事務局長  
道を聞いたって教えてくれるわけが…。

ピンポーン！

みんな え！？

音と同時に、目の前のカベがひらいていく！

なぞの声 コチラへドウゾ。

みんな 教えてくれたーっ！

まっしる姫・戦う姫 そんなのってあり！？

事務員 こまったときは素直に聞けば、だれかが助けてくれるものなのね。

みんな ふかいわー。

事務局長 じゃ、行きましょう。

みんなは、通路に一步。

事務員 ……なんか、イヤな予感。

ポトポトポトっ！と、上から毛虫がいっぱい落ちてきた！

みんな ぎゃーっ！ケムシだーっ！

みんなは、あわてて逃げ出していった。

モンスター ホーッホッホッホッ！ 甘いわね。知らない人の言うことを素直に聞くと、痛い目にあうこともあるザマス。よく覚えておくザマス。さて、次は…。

また別の部屋では、ハーバード探偵団がジッと扉を見つめていた。

モンスター あら、何してるのかしら、あの子たち？

## S9 カンゴク島・別にフツ一の部屋

ハー団1 ……こまったわね。

みんな ……うん。こまったね。

モンスター なにがザマス？

ハー団2 すぐフツ一の扉。

ハー団3 フツ一の通路。

ハー団4 どこにもなんにも怪しいところはない。

モンスター そうザマス。あたくし、そこには何にもしかけてないザマス。さっさと行くザマス。

みんな あやしい。

モンスター ブッ…なに言ってるザマスか、この子たちは！

ハー団4 でも、先生、このままじっとしててもしょうがありません！

ハ一団2 やっぱり、開けてみるしかないんじゃないでしょうか？

ハ一団1 そうね。：ハ一団3ちゃん、おねがい。

ハ一団3 えーなんであたしがー？

ハ一団1 だってあたしはハ一バード大学いちの天才よ？ ワナに引っかかったらどうするのよ。

ハ一団3 じゃ、やるけどー。

モンスター …まあ、いいザマス。次の部屋でビシッと教育してあげるザマス。はい、さっさとガチャッと開けて…ガチャッと…ガチャッと…何してるザマス？

ハ一団3、扉を押すが、開かない。

ハ一団3 先生、開きません！

モンスター 引くザマス！ 押さないで引くザマス！ 何やってるザマスか、この子たちは！

ハ一団4 やっぱり、そうカンタンにはいきませんね。

ハ一団2 なにかナゾを解かなきゃいけないんでしょうか。

モンスター そうじゃなくて…！

ハ一団4 私、もう一度やってみます。

ハ一団1 おねがい。

ハ一団4は、やっぱり扉を押してみた。

ハ一団4 先生！ 開きません！

モンスター 引くの！ 押すんじゃないくて、引くの！ ただそれだけなのよ！ ああ、もどかしい！

ハ一団1 しょうがないわね…。 押してダメなら…。

モンスター やっとわかってくれたザマスか！

みんな もっと押す！

モンスター なんで!?

みんな えーい！

みんな、全力で押しはじめる。

モンスター ちよっと、やめなさい！ そうじゃないから！ おちついて、みんな、おち

みんな つくのよ！

みんな うわーっ！

押しつかれたみんなは、後ろにぶったおれた。

そのとき、たまたま引っぱられた扉が無事に開いた！

みんな 開いたーっ！

ハ一団2 先生！ ぶじにあきました！

ハ一団1 みんなで押して正解だったわね！

みんな おーっ！

モンスター ちがう…ちがうのよ…そうじゃないの…。  
ハー団1 じゃ、行きましょ。

ハーバード探偵団は、元気に扉をくぐっていった。

モンスター 何かしら、この敗北感…。あたくしの長い人生、ここまで打ちのめされたのは、初めてよ。まあいいわ、次の部屋でゆっくりと…。

みんなの声 ぎゃーっ！

モンスター なんでそっちのワナには引っかかるのよ！…もういいわ、全員、最後の部屋へいらっしやい！あなたたちには、ながーい時間をかけて、ゆっくり教育してあげるザマス。

モンスター・ママが何かスイッチを押すと、ゴゴゴゴ…という音が響いてくる。

モンスター だから…うまくやるザマスよ、お前たち。ホーホッホッホッ！

## S10 カンゴク島・最後の部屋

ということ、最後の部屋にみんながそろってたどりついた。

戦う姫 と、いうことで…最後の部屋についたわけね。

魔女A それにしてもここ…。

魔女B なんだか、すごい数の扉がならんてる…。

と、扉を見ていたハー団3。

ハー団3 先生…？

みんな え！？ 先生…？

ハー団1 シャーロット先生がいたの！？

ハー団3 じゃなくて…。

ガクッ。

ハー団3 扉にね、学校の先生って書いてある。

みんな え？

ココ団3 本当だ。扉の二つ二つに、仕事を書いてある。

事務局長 …お医者さん。

まっしろ姫 警察官。

ハー団4 保育士。

ココ団2 建築家。

戦う姫　なにこれ、どういうこと？

魔女A　まだゴールじゃないのかな？

みんなは意味がわからず、首をかしげる。

ハ一団4　ううん、ここはカンゴク島、最後の部屋。楽園の入り口。

みんな　楽園の入り口！？

ハ一団4　私たちの未来が決まるところよ。

みんな　未来が…？

みんな、なんだかよく分からなくて、またまた首をかしげる。

まつしろ姫　なんだかよく分かんないけど、ここが楽園の入り口なら…。

ルパンズ　いっただきーっ！

みんな　あー！

ルパンズの3人は、シャーロットのカバンをとりあげた。

事務局長　ちょっと、なにすんのよ！

事務員　なにして、決まってるでしょう？

まつしろ姫　シャーロット・ホームズのカバンはいただくわ。

ハ一団1　私たちこそが、そう！

ルパンズ　怪盗ルパンズ！

みんな　えーっ！

ハ一団1　楽園に行くのは、あたしたちよ！

みんなは、怪盗ルパンズをとりかこむ！

ハ一団4　先生、あなたが…！？

ハ一団1　フフフ…驚いたようね。

ハ一団2　それじゃあ、ハ一団1ちゃんはずっと…。

ハ一団1　そう、わたしはずっと…！

ハ一団4　自分で事件を起こして、自分で捜査してたってこと！？

みんな　バカみたい！

ガーン！

事務員　○○（ハ一団1の名前）ちゃん、しっかりして！

まつしろ姫　そんな言葉に負けちゃダメよ！

ハ一団1　気づかなかったわ…次のノーベル賞候補といわれた私でも…ああっ…。

ハ一団1は、ショックのあまりぶったおれた。

事務員 ○○(ハー団1の名前)ちゃん!

みんな やった!

まっしる姫 まさか○○(ハー団1の名前)ちゃんがやられるとは…。でも、見てらっしゃい。私はそう簡単には…!

魔女A・魔女B はい、リンゴ。  
まっしる姫 リンゴはイヤーっ!

まっしる姫、ぶったおれる。

みんな やった!

事務局長 まったく、たあいもないわね。

戦う姫 さあ、事務員、もうあなただけよ。

□□団3 先生のカバンを渡しなさい!

事務員 ふっ…私を二人といっしょにしないでほしいわね。このカバン、とれるものなら、とってみなさい!

そう言うと、事務員はなんだかあやしげなボタンを押した。  
すると、ゴゴゴゴ…というとてもイヤな音が聞こえてくる…。

ハー団3 なに? このヤバそうな音…。

□□団2 見て! 上からがロウヤがおりてくる!

事務局長 みんな、逃げて!

みんなは、あっちだ、こっちだ言いながら、逃げまわる!  
やがてロウヤがおりてきて…ガゴーン!

ハー団3 あれえ…。

みんな こっちが中だった…!

けっきょく、みんな閉じこめられてしまった。

そこに、見計らったようにモンスター・ママがやってくる。

モンスター ホーっホッホッホッ! よくやったザマス、○○(事務員の名前)さん。

戦う姫 なにあいつ! キモイ!

モンスター おだまりっ! あたくしは、このカンゴク島の看守長、モンスター・ママ。

よくみんなをここまで連れてきてくれたザマス。本当にいい子ザマスねえ。

魔女A ちよっと、○○(事務員の名前)!

魔女B どういうこと?

モンスター 教えてあげるザマス。

事務員 そう、怪盗ルパンズすらも仮の姿。わたしこそ、このカンゴク島のスパイ、人呼んでカンゴクの○○(事務員の名前)!!!

みんな えーっ!

モンスター そしてもう一人、あたくしの右腕にして、カンゴク島のスパイをまとめる

鉄の女。

ハ一団4 鋼の○○(ハ一団4の名前)とは私のことよ。  
みんな ええーっ！

ハ一団4は、「カンゴク島にいる」と書かれた手紙を出して、

ハ一団4 残念だったわね。これはシャーロットの手紙じゃないの。すべてはあなた  
たちを呼びよせるためのワナ！

モンスター あーたたちは、まんまとだまされたってわけ。ホーッホッホッホッ！  
みんな ちくしょー！

みんなはくやしそうに床をたたいた。

ハ一団4 ということで、あなたたちには、これからこの島で暮らしてもらいます。

事務員 そして、この扉の中から自分の道を見つけて、楽園に行ってもらいます。

みんな 自分の道？

ハ一団1 そんなの決まってるじゃない。探偵よ。

モンスター ブブー！

魔女A・魔女B 魔法使い。

モンスター ブー！

まっしる姫・戦う姫 お姫様！

モンスター ブブブブブブブー！

まっしる姫・戦う姫 チョーむかつく！

事務員 言ったでしょ。ここは楽園の始まり。それは夢の終わり。

ハ一団4 もういいかげん、バカな夢を見るのはやめて、現実を見なさい。

みんな え…。

ハ一団4 あなたは、何になりたいの？

みんなは、なんだかその言葉にドキッとした。

ハ一団2 ○○○(事務員の名前)…。

事務員 ……。

ハ一団2 ○○は知ってたの？ 宝物をぬすまれた人が、カンゴク島に連れて行かれ  
てるってこと。

事務員 知ってたよ。だって私は、そのためにカンゴク島から戻ってきたんだもの。

魔女A そんなの、ひどいよ！

魔女B ずっとみんなをだましてたなんて！

事務員 ……。

ハ一団2 シャーロット先生はどこ？

ハ一団3 そうだよ、シャーロット先生に会わせて！

ハ一団4 無理よ。あの人は、ここにはいない。

みんな え？

ハ一団4 私が連れ戻しに行ったときには、どこかへ消えてしまった…。

みんな 消えた…？

事務員 それじゃ、もう先生は…。

モンスター 心配することないザマス。あーたがたは、あたくしたちが責任を持って樂園に送り届けてあげるザマス。あーたがたが望む、本当に素晴らしい世界へね。ホーツホツホツホツ！

ハ一団4は事務員をつれて、部屋を出て行くとする。

ハ一団2 待って！お願い、行かないで！

ハ一団4 ……。

ハ一団2 私は、あの町が好きなの。私はおちよこちよいで何にもできないけど、みんなと探偵やったり、遊んだり、どんなことでもできるあの町が好き。好きなんだよ。だから…。

モンスター 残念ながら、あーたがたが島に来たことで、もうあの町に住む人は、一人もいなくなったザマス。

みんな え！？

ハ一団4 そう…名前のない町は、なくなったのよ。

そうして、ハ一団4たちは、部屋を出て行った。

## S11 カンゴク島・最後の部屋

みんなは、なんだかつかれきったように、座りこんでしまった。

まっしろ姫 …おもしろくないっ！

事務局長 まっしろ姫…。

まっしろ姫 なんかもう、ゼーんぜん！おもしろくないっ！

戦う姫 あたしも！あたしも、あたしも、あたしも！なんかもう、いま、すっごくぶっ飛ばしたい！

まっしろ姫 でしょ！

戦う姫 むかつく、むかつく、むかつく！

魔女A ちよっと二人とも、おちついて。

魔女B そんなこと言ったらって、この島は出られないんだよ。

□□団2 町はなくなっちゃったんだし、

□□団3 帰るところないじゃん。どうすんの？

□□団3の言葉に、二人はガックリとうなだれる。

戦う姫 そうなんだよねえ…。

事務局長 よりによって、あの二人がスパイだったなんて…。

ハ一団3 そんなのってないよ…。

魔女A けっきょく、ここで言われたように生きてくしかないのかな…。

みんなは、ガックリうなだれた。  
だけどそのとき、□□団1がなんだか決心したように、みんなの前に進み  
出てきた。

□□団1 そんなのイヤだよ。僕は、そんなのぜったいにイヤだ。  
魔女B □□団1…。

だって、僕はまだなんにもやってない。カバンのナゾだって解いてないし、  
シャーロット先生も見つけてない。町のみんなだって…！

みんな

……。

もう帰る場所はないのかもしれないけど、だからってへんなヤツのいいな  
りになる必要なんてないよ。僕たちが今、何をするかは、僕たちが決める  
ことなんだから。

でも…。

みんな

ハ―団2

さっきね、二人を見てて気づいたことがあるんだ。○○○(事務員の名前)  
も、○○○(ハ―団4の名前)も、ぜんぜん楽しそうじゃなかった。

みんな

え…？

ハ―団2

楽園はいいところだって言ってたけど、二人とも、ぜんぜん楽しそうじゃ  
なかった。そんなのって、おかしくない？もしここが本当に二人の家な  
ら、二人はもっと幸せそうはずだよ。

だから僕は、やっぱりあの町に帰りたい。

□□団1  
ハ―団2

みんないっしょに。二人もいっしょに。

みんなは、だまって二人のいうことを聞いていた。

□□団1は、ちょっと不安になって、

□□団1

…ダメかな。

□□団2

ダメっていうか…。

□□団3

なんか二人が…。

みんな

ちよーカッコイイ。

なぜだろう、そのとき、みんなの肩から力がぬけた気がした。

魔女A

そうだよ。こんなとこいたって、つまんないもんね。

魔女B

私も、はやく町に帰りたい。

事務局長

そうと決まれば、やることは一つ。

まっしる姫

あんたたち！

まっしる姫の一声で、どこからともなく小人たちがあらわれた！

小人たち

ハッ！

みんな

出たーっ！

まっしる姫

だいじな姫さまがつかまってるってのに、なにポーズしてんのよ！さ

っさと助けなさい！

小人たち

ハハッ！

小人たちは、あっという間に扉をぶっ壊した！

みんな  
すごい！

ハ一団3  
はじめて小人がやくにたった！

小人たち  
姫さまのためですから！ ハ一ッハ一ッハ一ッハ一ッ！

みんな、ロウヤを出てくる。

事務局長  
じゃ、行きましようか。

まっしる姫  
二人を助けに。

戦う姫  
このカンゴク島からぬけ出して、

みんな  
みんなで町へ帰るために。

魔女A  
わたしたちの町がなくなつたなら、

魔女B  
また新しい町を作ればいい。

ハ一団1  
たとえそこがどんなところでも、

ハ一団2  
私たちはきつと歩いていける。

みんな  
これは私たちの夢だから。私たちが選んだ道だから。

ハ一団3  
楽園がどんなところか知らないけれど、

ココ団1  
今がつまらないなんて言わせない。

ココ団2  
押しつけられた楽園なんかいららない。

ココ団3  
たとえどれほど道をまちがえ、

魔女A  
たとえどんなに遠まわりをしたとしても、

魔女B  
自分で選び、自分で歩いた道こそが、

みんな  
本当の夢へとつづく、ただ一つの道だから。

ココ団1  
さあ行こう。

ハ一団2  
私たちの楽園をつくりこ。

みんな  
これは私（僕）たちの、最後の事件だ。

## S12

### カンゴク島

カンゴク島のどこか、暗やみの中を、みんなは迷うことなく進んでいく。

みんな

ここは、カンゴク島…。けわしいガケにかこまれた、ゼツカイの「コト」。一度入ると二度と出られないという恐ろしい島。でも、人はいます。カンゴク島こそが、楽園につづじる道なのだと。だれもが通らなくてはならない、試練なのだ。

その暗やみの先に、事務員とハ一団4の姿が見えてくる。

みんな  
○○（事務員の名前）！ ○○（ハ一団4の名前）！

ハ一団4  
みんな…どうして！

事務局長  
私たち、きめたの。

まっしる姫 私たちはここを出て行く。

コ口団2 だから、いっしょに行こう。

魔女A 私たちといっしょに、あの町へ。

魔女B 私たちの夢の町へ。

事務員 みんな…。

事務員は、みんなのところへ行こうとする。

でもハ一団4は、みんなに背を向けた。

ハ一団4 …ムリよ。

みんな ハ一団4！

ハ一団4 私には、できない。

ハ一団2 どうして？

大好きな人がいたの。とても大切な人が。その人といっしょにいて、私はとても幸せだった。だけどいつからか、心の中の「好き」があふれ出して、私は私でいられなくなった。だれかのための私でいることに、私はつかれてしまった。そして私はその人を…傷つけてしまったのよ。

〇〇(ハ一団4の名前)…。

それって、シャーロット先生のこと？

え…？

私、知ってるよ。あなたとシャーロット先生は、ずっと昔からの友だちだった。

あの名前のない町で、ずっと二人はいっしょだった。

そう、あの人が消えてしまったのは私のせい。だから私は、ここを出ることはできないの。

ハ一団4は、去ろうとする。

コ口団1 ダメだよ！ 何があったのかは分からないけど、カンゴクに閉じこもるなんて、そんなのダメだ！

…。

ねえ、〇〇(ハ一団4の名前)…もどろろよ。みんなといっしょに、あの町に…。

なに言ってるのよ。あなたはここにいればいいの。そうすれば、楽園に行けるから。私はここでそう教わってきたし、それを信じてる。

それなら、どうしてそんな顔をしてるんだよ？

もし、その楽園が本当に素晴らしいところなら、あなたはもっと笑顔のほずでしょ。

…。

あなたの笑顔を見せてください。本当にすばらしい未来がそこにあるのなら、あなたたちの笑顔を見せてください。そうしたら私たちもきっと、あなたたちを信じていることができると思うのです。笑っていられると思うのです。

ハ一団4 みんな

ハ一団4

ハ一団2

コ口団1

ハ一団4

事務員

ハ一団4

コ口団1

ハ一団4

事務局長

まっしる姫

ハ一団4

コ口団2

ハ一団2

ハ一団4

ハ一団2

ハ一団4

みんな

ハ一団4

事務員

魔女B

魔女A

コ口団2

ハー団2は、シャーロット先生のカバンをハー団4に差し出した。

ハー団2  
これ…。

ハー団4  
……。

ハー団2  
私ね、やっとわかったの。これはたぶん、先生があなたにあてたメッセージだったんだって。

ハー団4  
私に…？

ハー団2  
開けてみて。

ハー団4がカバンを手にすると、今までこわれて開かなかったカバンの留め金が外れる音がした。

ハー団4はカバンを開けると、中に入っていた書類を取り出した。

ハー団4  
これは…。

S13

### 夢の町

ハー団4の前に、一人の女性がやってきた。

それはハー団4にとって、とてもなつかしい人だった。

女性  
…○○(ハー団4の名前)。

ハー団4  
…シャーロット。

女性は、ハー団4に優しく笑いかけた。

女性  
久しぶりね。

ハー団4  
どこにいたの？

女性  
遠いところよ。ずっとずっと…遠いところ。

ハー団4  
そう…。

ハー団4は、少し強がって見せて、

ハー団4  
それで、何しに来たの？

女性  
あなたを…楽園に連れて行くことと思って。

ハー団4  
楽園に？

女性  
ええ。決められた扉の先にはなく、見えない道の先にある、本当の楽園に。

ハー団4  
……。

女性  
私は今、そこに向かっているの。

そう言った女性の顔は、とても誇らしげだった。

ハ一団4 …楽しそうね。

女性 ええ、もちろん。

ハ一団4 そこは…いいところなの？

女性 さあ…。

ハ一団4 なにそれ。

女性 だって、まだ分からないもの。決まった未来なんて、どこにもない。傷つ

くことも、傷つけることも、泣くことも、泣かせることも、たくさんあつて…でも…。

でも？

ハ一団4 自分の選んだ道だもの。

女性

ハ一団4 …行けるかな。私にも。

女性

もちろん。あなたが歩き出しさえすれば、楽園のカギは、いつだってあなたの手の中にある。ねえ、○○○。本当の楽園に至る道はね、どこにでもあるのよ。

ハ一団4 は、カバンと、カバンといっしょに送られてきた、いろんなものを見つめ直した。

ハ一団4 …読めない手紙。

女性 私たちが作った、くだらない暗号。

ハ一団4 何も開けられないカギ。

女性 私たちの、秘密探偵事務所のカギ。

ハ一団4 ただの拾ったカギだけ。

女性 こわれたカバン。

ハ一団4 中にあるのは、たくさんの捜査資料。

女性 私たちの探偵ごっこの記録。

ハ一団4 女名探偵シャーロット・ホームズの捜査記録。

大人になった今では、どれも無意味で、くだらないものだけど、だけど大切な大切な思い出たち。これがあるから、私は今、歩いて行けるんだよ。

…。

だからね、○○、あなたも歩き出して。あなた自身の足で。

女性はそう言つと、去っていきつとす。

ハ一団4 シャーロット…！

女性 ……。

ハ一団4 ごめんなさい…。

女性は笑って、消えていく。

ハ一団4 がふりかえると、そこには事務局長、まっしろ姫、□□団2の姿がある。

3人 ハ一団4…。

ハ一団4 みんな…。

## S14 名前のない町

気がつく、みんなはカンゴク島をぬけ出して、見知らぬ町にいた。

魔女A あれ…。もどった。

魔女B でも、ここどこだろ？

ハ一団3 ぜんぜん知らない町に来ちゃったの？

コ口団3 まあいいじゃない。どこだって。

コ口団1 さっそくここに、探偵事務所を作らなきゃ！

コ口団3 だよー。

ハ一団3 ○○（ハ一団1の名前）ちゃんはまだ、怪盗やるの？

ハ一団1 バしてるのにやったってしょうがないでしょ！

みんな だよー。

事務員 ねえ、○○（ハ一団4の名前）は何をしたい？

楽しそうに話しているみんなの横で、ハ一団4はまだ表情がかたかった。

事務員 ハ一団4…どうしたの？

みんな、本当にありがとう。みんなが迎えに来てくれたこと、とてもうれしかった。だけどね、私、もうみんなといっしょにはいられないの。

なんで？

魔女A 私たち、べつになんにも気にしてないよ。

魔女B そうだよ。せっかくいっしょに帰ってきたんだから…。

戦う姫 ハ一団4 ううん、そうじゃないの。私はもう、行かなくちゃいけない。シャーロットが町を出て行ったように、私も、本当の楽園をめざして…。

ハ一団3 え、それって…。

ハ一団4 そして…。

事務局長、まっしろ姫、コ口団2もハ一団4の横に並んだ。

事務局長・まっしろ姫・コ口団2 私たちも。

みんな えーっ！

コ口団3 どうして…！

4人はちょっと言いづらそうに顔を見あわせたけど、決心したようにみんなの方を見た。

事務局長 さっきね、私たち、シャーロット先生に会ったの。

まっしろ姫 そして先生は教えてくれた。もう私たちが、町にはもどれないってこと。

旅立つ時が来たんだってこと。

□□団2 だけど心配しないで。私たちは、消えて無くなっちゃうわけじゃない。

事務局長 町を出て、自分の道を歩いていっただけ。

まっしろ姫 みんなにもいつか、その時が来る。

□□団2 そしたらその道の先で、本当の楽園で、きっとまた会えるから。

みんな そんな…。

事務局長 だから、忘れないで。

まっしろ姫 私たちのことを。

□□団2 この楽しかった思い出を。

八一団4 それが、私たちの最後のお願ひ。…ね？

みんなはしばらくだまっていたけど、ようやく□□団1が口を開いた。

□□団1 うん…僕たち、ぜったいに忘れないよ。

そう言うと、□□団1は、手を差し出した。

出て行くみんなも、残るみんなも、みんながその手を取った。

みんな 今まで、ありがとう。

やがてみんなは一人、また一人と手をはなすと、八一団4たち4人は町の出口へと向かっていった。

そして最後にもう一度、みんなをふり返った。

八一団4 それじゃ、みんな！

4人 行ってきます！

みんな 行ってらっしゃい！

音楽

おしまい♪